

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3370204111		
法人名	ヨシケン不動産株式会社		
事業所名	グループホームひまわり (希望ユニット)		
所在地	岡山県倉敷市真備町川辺2136-1		
自己評価作成日	平成22年5月21日	評価結果市町村受理日	

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kaigo-kouhyou.pref.okayama.jp/kaigosip/informatiionPublic.do?JCD=3370204111&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ライフサポート
所在地	岡山市北区南方2丁目13-1 県総合福祉・ボランティア・NPO・会館
訪問調査日	平成22年5月27日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

広々とした庭や畑など恵まれた環境の中で、職員は元気で明るく、笑顔いっぱいのホームである。代表者、管理者、職員が一丸となって、サービス向上に向けて日々努力を続けている。職員は、利用者様お一人お一人を大切に、一日一日を大切にお世話をさせていただいている。利用者様、ご家族とのコミュニケーションを十分に図り、気持ちに寄り添い、一緒になって考えたり共感をし、安心して暮していただけるように努めている。職員が、生き生きと働けることが出来る職場であるよう処遇改善に努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

不動産業を営むオーナーは、永年この地域の高齢者や障害者と子供に対する愛情から福祉にもボランティアで色々な面に貢献しているようだ。そして自分の活動を型にしたものが5年前に開設したグループホームである。そして有料老人ホームやデイサービス事業を展開している。これらの事業によって職員の人事異動もあり、昨年7月より新しい園長を迎え、このホームの運営責任者として新しい目(以前は保育士)で老人介護を担った。又、職員の中から若い男性と女性の管理者を選任し、同じく設立当初からいるケアマネジャーの4人のコンビネーションでこのホームの再出発を計っている。職員も20代の女性が多く、笑顔と明るさで利用者がここが最高の居場所と思ってもらえるようなホームにしたいという意気込みを感じることが出来た。これからは期待しておきたい。

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに 印	項目	取り組みの成果 該当するものに 印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き生きと働けている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

(セル内の改行は、(Alt+-) + (Enter+-)です。)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所内の目につきやすい所に理念を掲示し、朝礼時に再認識できるよう話をしたり、理念の軸となる「いつもニコニコ笑顔の対応」を合言葉の様に言っている。	『笑顔での対応』という開設時からの理念を実現するため、新しい園長を中心にして、姿勢を新たに取組んでいる。職員たちはお互いよく話し合いながら、生き生きと仕事をしており、利用者の笑顔にもつながると思う。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営母体の代表者は、長年に亘り福祉の充実を願い、ボランティア活動を通して地域社会に貢献してきた。ホームでも、年に数回幼稚園児が訪れたり、夏祭りには近隣住民を招待したりして、交流を図っている。	地域の幼稚園や小中学校の行事に案内をもらい、時々参加している。慰問のボランティアも来訪している。また、ホームの庭で行う夏祭りには多くの地域住民に参加してもらって、利用者たちも一緒に交流を楽しんでいる。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	何組ものボランティア、実習生、中学生の職業体験等、積極的に受入を行い、認知症の理解、支援に努めている。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議へ興味を持っていたできるように内容を工夫したり、又参加しやすい日程(行事とセットする)を組んだりして、できるだけ多くの方に参加していただき、いろいろな意見を聞かせていただきサービス向上につながるように努めている。	新体制になって運営推進会議を2ヶ月に1回開催でしている。住民代表として幼稚園からの参加、地域包括、家族の参加を得て、ホームの現況などを話している。行事との同時開催で、多数の家族に参加してもらうこともある。	民生委員・町内会など地域から多くの参加者をお願いし、ホームの状況を知らせると共に、地域交流や災害時の支援要請を行い、関係を深めていきたい。
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議の時には、必ず地域包括支援センターの方へ出席していただき、職員、家族が利用者のことで困っていること、悩んでいること等へのアドバイスをいただいている。	運営推進会議に地域包括支援センター職員が参加している。市職員にも参加案内を出しておきたい。手続き上の連絡等で市との連絡は園長が行っている。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	マニュアルなどを利用して勉強会を行い、意識の徹底に努めている。	身体拘束排除マニュアルを備え、今年から会議を開き安全に対する心がけについて話し合いを行っている。薬も使用しない対応に努めているが、止むを得ず家族の了解の下でベッド柵を使用することもある。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	マニュアルなどを利用して勉強会を行い、意識の徹底に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	以前、入所されていた(青年後見制度を活用)方がおられた時には、少し触れたことがありましたが、以後、学ぶ機会は持ったことがありません。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結、解約とも、園長が時間をかけ、最初から最後まで説明をし、納得をしております。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情箱を設置している。 家族の面会の時には、必ず会話を交わし、気持ちなど聞くようにしている。また、運営推進会議の案内は、毎回全員に出し、参加を促し、意見、要望が言える機会を設けている。	家族とは面会時の声かけのほか、必要ときには電話などで連絡を取り意見を聞き、記録に残している。日常の様子を家族に毎月知らせ、行事に合わせて運営推進会議を行って、家族の参加を促し、意見を求めている。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者と管理者は日常的に必要なことは、よく話し合っている。 定期的に会議を行っている。 代表者は、前向きに職員の意見を聞き、運営に生かしている。	同年代の職員が多く、日頃からよく話し合っている。月1回のカンファレンス会議で職員の意見を聞いたり、管理者が個人的に職員の話を聞いたりしている。法人の福祉会議で園長と管理者がホームの提案をしている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	同事業所3施設で定期的に福祉会議を行い、職員の処遇改善に向けて努力している。。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員それぞれの段階に応じた研修を受ける機会を設けている。 資格取得希望者には、取得費の立替をしたり、勤務体制への配慮をしている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	不定期ではあるが近隣同業者が集まり、ネットワーク作りや情報交換を行い、サービスの向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	御本人に対してのケアの方法が現在と同じように出来るよう、御家族や関係者からも話を聞いている。対応方法など急に変更になり、御本人が戸惑う事のないようにしている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前面接や入所決定時にプラン作成にあたり、御家族の希望を聞かせて頂き、こちらでどのような対応ができるか話をしている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	御本人や御家族の希望・現在の介護の方法を基準とし、入所と同時に生じるであろう問題を想定した上で、相談検討を行い、プランを作成する。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	御本人の話を聞いたり、御家族より提供された話を元に、生活の中でしっかりと会話が出来る。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	御家族の話を会話の中に盛り込んだり、本人の状況をご家族に報告している。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者、家族とのコミュニケーションを通して、利用者の今までの人生や職業を知り、馴染みの方にホームに来ていただき楽しい時間を過ごしていただいたりしている。	利用者の生活歴や職歴などを把握し、できるだけ家族や知り合いと連絡をとったり、思いに添うよう利用者の話を聴いたりしている。ホームに馴染むためには寄り添う時間を多くし、洗濯物をみんなでたたむなどしている。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	自室に一人になったり、リビングでも一人きりになる事が無いよう声掛けを行っている。また、家事も共同してして頂けるようセッティングしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退園後、こちらの方から、相談に乗るような連絡は取っていないが、連絡がある時には適切に対応できるようにしている。退園後に訪問してきて下さる方がおり、大変ありがたく感じている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃からの利用者とのコミュニケーション、御家族の方からの話などを通して、希望や意向の把握に努めている。	入居時のアセスメント・日頃の行動の観察により、利用者の特徴を知り、利用者の思いを把握しようと努めている。支援計画の見直し時にも、家族や利用者の思いを聞いている。本人の言葉で記録しておきたい。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前面接にてこれらの内容について、御本人やご家族に聞き取りを行い、職員みんなが把握するようにしている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員は御本人の普段の状態を把握しており、何か変わったところがあれば、出勤職員と情報交換を行っている。また、その状態を夜勤者、次の日の出勤者に申し送りができるよう努めている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	御本人の現状に無理が無いかを考え、職員から意見を出して頂き、様子観察を行った上で、ご家族に相談を行っている。その時の状態にあったプランの実行が出来るように努めている。	入居時のアセスメント・家族の要望・職員間の話し合いで計画を作成し、3ヶ月に1回の見直しを行う。毎月のカンファレンスでモニタリングを行い、変化があれば随時見直しをする。支援内容は具体的なものになりたい。	利用者の状況を把握し、支援目標を立てているが、一つずつ取り組んで改善できるような、もう少し具体的な支援内容を考えてみたらよいと思う。
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日中の状況は個人記録に記入している。また変わった事、いつもと違う対応を行った場合の結果等を申し送りのノートに記入し全員が目を通すようにしている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	現在提供できる対応方法では困難なニーズが生じた場合には、様々なアイデアを出して頂き、対応が出来るようにしているが、すべての問題に対して、対応は困難である。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	のどかな環境に恵まれているので、自然散策をしたり、ホームの庭から田植えの風景を眺めたり、又幼稚園の運動会、中学校の吹奏楽演奏会に招待されたり、いろいろな体験ができています。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関(内科・歯科)と契約書を交わし、利用者の体調によっては往診をしてもらったり、電話で相談、指示を仰いでいます。	持病のある人は協力医療機関に定期的に受診し、投薬や検査をしている。受診に行けない人は往診してもらい、家族がかかりつけ医に連れて行く場合もある。全員が毎月受診する仕組みを作りたい。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	御本人の身体の状態の変化に気づき、かかりつけ医に相談したり、受診を行っている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	お見舞いに来るだけ頻繁に行くようにして、利用者の様子をみたり、医師、看護師の方と情報交換を行い、退院後のケアについても相談等を行っている。また、ケースワーカーの方とも、退院にむけての相談に乗っていただいている。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	担当医やケースワーカーの方とも相談を行い、何より御家族との話し合いを密に行い、事業所でできることを十分に説明させていただき、納得していただいている。	看取りの経験はある。医師・職員・経営者・家族の同意と協力により、取組む予定である。家族との契約には緊急時の取り決めはあるが、終末期についてはまだない。家族との話し合いでその都度対応していく。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ある病気に対して今後どのような症状が考えられるかといった説明は行っているが、職員全員が急変に対して適切な対応を行うことは困難と考えられる。定期的ではないが消防署にて救急の講習は受けた。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に数回、防災訓練(昼・夜それぞれの設定)を行っているが、地域との協力体制は今後の大きな課題となっている。	年間計画で火災・防犯・防災の避難訓練のいずれかを毎月行っている。今年からは消防署に来てもらい指導を受けることになっている。運営推進会議を通じて、万に備えて地域の人の支援を得られる関係作りを進めたい。	災害時には地域の協力が不可欠であり、日頃から地域との関係作りをおきたい。運営推進会議で協力依頼をしたり、町内会や消防団などとの付き合いを大切にしておきたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の大先輩の介護をさせていただいている、という気持ちを職員間で共有している。一人ひとりのペースを大切にしている。言葉かけにも気をつけるようにしている。	利用者の自由な思いを尊重し、作業やレクレーションのほとんどを個別に行っている。誉めたり、共感したりしてプライドを維持させることや、排泄ケアの時のプライバシー保守などに力を入れて欲しい。	利用者のしたい思いを叶えることや、誉めたり共感することで思いを受け止めて欲しい。排泄時や入浴時のプライバシー保守は基本である。
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	その時その時で本人がどうしたいか聞くようにしているが、利用者個々によって、聞いていい人悪い人、その時の本人の状態を考えて行っている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その方のペースを理解した上で対応を行えていると思っている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類などは季節に合っている物の中から、どれを着たいか、身に付けたいか、聞くようにしている。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の方とテーブルを共にして食事している。準備や片付けはその時の利用者個々の状態によってお願いしている。(自分ばかりが手伝わされていると勘違いされた事があった為、対応が困難になった。)	事業所全体で共通の献立があり、材料も共同で購入されている。ホームの行事に合わせた特別献立もある。利用者も手伝ったり、食器を運んだりしている。全員同じものを自力で食べ、職員と一緒に食べながら介助する。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	同じ食事でも、個人によって量を考えてよそうようにしている。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後は出来ている方と出来ていない方がおられる。夕食後には入れ歯の洗浄とうがいをして、入れ歯は洗浄剤につけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	定期的なトイレ誘導、声かけを行う。また、訴えがあればトイレ誘導を行っている。	寝たきりの人以外はトイレでの排泄を基本とし、声かけや誘導・介助を行い、排泄チェックを記録している。夜間おむつでも昼間はリハビリパンツでトイレ使用を続けたことで、失禁が減り、訴えが増えた例はある。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分の摂取量を多くする以外にも、ヨーグルトやヤクルトの摂取も検討している。自己購入になる為、ご家族に相談をして、理解を得られてから実行している。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	自由な入浴は行えておらず、曜日、時間帯は決まっている。が、その時の御本人の状態や拒否が見られると時には時間帯や日ごとの変更ができるようにしている。	入浴は2日に1回、週3回利用者ごとに日を決めて行っている。職員配置の都合で、利用者の自由な入浴とはいえないが、できるだけ希望に合わせるようにしている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	消灯の時間は決まっているが、TVが見たいなどの要望には柔軟に対応が出来ていると思う。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	病院や薬局でもらう薬の説明書は皆がすぐに見られるように管理している。飲み合わせや副作用について注意する薬の理解はしてもらいように指導している。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	御本人にできる事はして頂いたり、食事面で嫌いなものがあれば可能な範囲で取り除くようにしている。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご本人の希望を出来るだけお聞きし、意向に副えるように努めているが、遠い所やたびたびと言う訳にはいかないのが現状である。	買物・散髪・図書館などに個別または少人数で外出する。気になる家の近くまで行くこともある。全員での外出はないが、少人数で花見や紅葉狩りに出かけている。庭では行事以外に自由な散歩をさせてあげたい。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理は原則として出来ないようになってきている。お金を手にされる事はないが、可能などところで買い物にて自分のほしいものを購入できるようにはしている。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	御本人が電話を希望される事があれば、連絡を取っている。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の方が、不快に思われるような環境づくりはしていない。利用者の方の目線で指摘があれば、直すようにしている。常時ではないが、季節を感じて頂けるものを飾ったりしている。	リビングの扉一つで隣のユニットとつながり、交流できる。広いリビングには畳の間もあり、洗濯物をみんなでたたむ。大きな窓から広い庭が眺められ、いつでも出られると気持ちが良いと思う。塗り絵などの掲示もある。	広い芝生の庭を日常生活に十分活用したい。毎日の散歩や行事開催に大いに利用したい。リビングや廊下からいつでも出られると、利用者もすばらしい開放感を得られると思う。
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事時に座る場所は決まっているが、それ以外の時間では自由に椅子に座っていただくようにしている。食事時に空いている席があれば自由に移動して頂いてよい。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	エアコン・照明・カーテン以外は持ち込みになっている。部屋も御本人や御家族の思うように雰囲気作りをして頂いてよい。御本人の状態により、変更して頂くこともある。	思い出のタンスや、小型テレビ、仏壇など利用者の好きな家具や道具を置いている。自分で作ったたくさんの鶴を飾った人、家族の写真をいつも眺める人、鏡台を置いている人もある。トイレ付きの部屋もユニットに2室ある。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内はバリアフリーとなっており、自宅では困難だった事が出来るようになった方もおられる。ハード面だけでなく、職員の見守りにより、安全に生活して頂いている。		